



地域支援センター「みみらんど・郡山」

令和元年度 第2回きこえとことばの基本研修会

「補聴器・人工内耳・デジタル無線補聴システムについて」

8月22日(木)、第2回きこえとことばの基本研修会が行われ、寺井 寛教諭・若松まどか教諭による「補聴器・人工内耳」や「デジタル無線補聴システムについて」の講話がありました。



補聴器・人工内耳は

きこえのすべてを代替できる万能なマシンではない！
聴覚に障がいがある⇒きこえが不十分という前提

だから……

「環境づくり」
「使い方の工夫」が必要



年齢や発達段階に応じて「自己管理」できる

- ・日常管理 掃除
- ・トラブル対応、
- ・電池の購入・処理

…… 一人のできるかどうか

デジタル無線補聴システムの効果

- ① ノイズを軽減
- ② 聞きたい声に集中できる
- ③ 遠くても話者の声が聞こえる
- ④ きれいです



デジタル無線補聴システムを使うためには

- ① 効果を実感できる経験を積み重ねること
はっきりと聞こえた 話の内容が分かった
→→→もっと使ってみよう
- ② 様々な場所で、複数の条件で試すこと
どんな状況の時に効果的か、自分自身が知る
※「情報を得るための方法の一つ」という視点

補聴システムのトラブル

児童生徒は……

- 正直に伝える？
- 何も言わずに我慢する？
- 聞こえているふりをする？
- うるさいと感じる？

解決策🔗

- ①こまめに、同期されているか確認する
- ②とっさのタイミングで、呼んでみる
- ③もう一度同期してみる

補聴システムを使うとき

＜授業や講義＞

- ①効果的に使うには
はっきりと話す 文節を区切って話す
- ②児童生徒が発言するときは
話す人はマイクを使う 前に出て話す

＜集団討論・グループでの話し合い＞

- ①共通のルール（マイクが回ってきたら話す）
- ②音環境を整える
- ③無指向性マイク（どの方向からも音をひろう）

健聴者と同じきこえではない
長時間の使用は、耳に大きな負担をかけられる

＜参加者の感想＞

- 普通に聞こえるようになるものと誤解していましたが、講義や体験を通してわかりました。
- 補聴器や人工内耳は万能マシンではなく、補うものであるというお話と、実際に補聴器を付けてみて納得しました。本人の困り感に寄り添って支援していくことの大切さに改めて気づくことができました。